

令和5年度
学校関係者評価報告書

学校法人 江楠学園 佐賀工業専門学校

1. 学校関係者評価の目的

学校法人江楠学園佐賀工業専門学校における学校関係者評価は平成19年に学校教育法及び学校教育法施行規則の改正により、自己評価、学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規程が新たに設けられたことを受け「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って以下のことを目的として実施する。

- ① 自己点検評価の結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己点検評価結果の客観性・透明性と併せて信頼度を高める。
- ② 学生・卒業生、関係業界、中学校・高等学校、保護者・地域住民、所轄官庁・自治体の関係部局など、専修学校と密接に関係する方々からの理解促進や連携協力により学校運営の改善を図る。

2. 学校関係者評価委員の構成

学校評価委員は、以下の人員で構成する。

- ・ 関連業界等関係者 5名
- ・ 教育に関し知見を有する者 1名
- ・ 卒業生 1名

3. 学校関係者評価の実施方法

令和6年5月15日（水）

佐賀工業専門学校 多目的室

参加者 委員 7名 事務局 5名

学校関係者評価委員の皆様には、事前に郵送等で配布した報告書並びに本校のホームページ上で公開されている学校情報等で理解を深めていただいたうえで、令和5年度自己点検評価の成果をもとに意見交換を通して得られた意見を取りまとめた。

4. 学校関係者評価委員からの意見並びに特記事項

(1) 教育理念・目標

❖ 特記事項

- ・ 自動車学科においては、技術の進歩に伴う電動化にも対応できるメカニックを養成することが求められる。併せて国家資格の自動車整備士技能検定等の一部を改正する省令の公布に伴い施行日の令和9年1月1日に向けて取り組むことが課題となる。
- ・ エアポートサービス学科においては、コロナ過が明けインバウンドによる訪日客の大幅な増加から業界が求める質の高いグランドハンドリングスタッフの養成に取り組まなければならない。
- ・ 卒業後に向けて社会人としてのコミュニケーション能力向上など人間力の育成にも応えていかなければならない。
- ・ 学校の理念の周知については、学校評価アンケートの回収率の向上が求められる。

***委員からの意見**

・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想をしっかりと抱いたうえで、学生・保護者等に周知されるものではないでしょうか。

・保護者からアンケートの回収方法について

(学校から：社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想については、教職員において共通認識を図り周知を図る。また、卒業生の保護者に対するアンケートの回収方法並びに回収率について説明。回収率：56%。昨年度と比較し向上した旨を報告。併せて自由意見の集約についても説明を行った。回収率の向上のために回収方法・ツールについての検討が必要である。また、国家資格の自動車整備士技能検定等の一部を改正する省令の公布に伴う新教科書の発行が10月ごろと聞き及んでいることからカリキュラムの策定・教材の確保などにしっかり対応していく旨を説明した。)

(2) 学校運営

❖特記事項

・教育活動等の公開については、募集業務に直結することからホームページを含めSNSを駆使し、タイムリーな情報発信に引き続き努める。

(学校から：高校生(対象者)などが関心のある発信ツールに投稿する際、#(ハッシュタグ)の活用方法について説明した。)

(3) 教育活動

❖特記事項

・教育活動では大きな課題はないものの自動車学科においては、自動車の新機構・技術に関する研修会等へ積極的に参加することで指導力の向上に寄与する。エアポートサービス学科においては、より実践的で基本動作の修得を実とする内容となるよう編成する。

***委員からの意見**

自動車の新機構・新技術に関する研修会について

(学校から：研修会の内容等について説明し、指導力並びに資質の向上に欠かせない研修会となっている。また、令和6年度から自動車学科の教員増について説明した。)

(4) 学習成果

❖特記事項

・卒業生等の活躍・評価の把握は、情報共有を教員間の共通認識とすることが重要である。

・退学者の皆無は、学校評価に直結することから教職員一丸となり学生のサポートに併せ保護者との連携を密にして継続に努めていく。

***委員からの意見**

・卒業生の中で専門分野以外への就職している学生がいるのか？

・卒業後の企業在籍確認・離職率の把握について

(学校から：令和5年度卒業生については、専門分野以外への就職者はいない。また、在

籍確認については、企業採用担当者へアンケートを実施し併せて離職率の把握にも繋げていく。）

(5) 学生支援

❖特記事項

- ・健康管理組織体制については、同法人の高等学校保健室（同敷地内）との連携で補っている。また、衛生委員会での情報をもとに学生指導に役立てている。
- ・課外活動の支援体制については、専門学校九州ブロック体育大会への参加に向けて学生からの希望を募り積極的に支援を行う。

*委員からの意見

- ・キャリア教育・職業教育の取組でどのような内容か？
（学校から：両学科に関する業界情報・学校の特色・カリキュラム・進路状況などのほか体験実習を含め高等学校の要望に応じている旨を説明した。）

(6) 教育環境

❖特記事項

- ・昨年度改善課題であった校内 WEB 環境の整備は、令和 5 年度中に改善を図った。
- ・本年度新たな教員採用に伴い、昨年度に続き電子黒板の操作について教務部長の計画で夏季休業中に普及教育を行う。

(7) 学生募集

❖特記事項

- ・昨年度実績を上回る入学生の確保ができた事から、この流れを継続させることが求められる。同法人高等学校との連携事業などの内容もマンネリ化とならないよう改善が必要である。併せてオープンキャンパスの企画内容等も魅力あるものに取り組んで行かなければならない。引き続き教職員一丸となって取り組んで行くことで、関係業界が求める人材の育成確保にも応えることができると思料する。

*委員からの意見

- ・情報発信の在り方について、若者が得意とする SNS などのツールを駆使し低学年者から対象とした広報を推し進めていく必要があるのでは。
- ・インターネットから貴校を Google 検索すると外観写真が現状と違うのでは。
（学校から：昨年度は、佐賀県産業人材プロジェクト推進会議専修学校部会において TVer によるターゲット（高校生・保護者・地域）を絞った学校情報の発信を行った。この他、本校独自の取組として映画館での CM 上映などの取り組みについて説明した。また、Google 検索での外観写真の修正について取組むことを説明した。）

(8) 財務

❖特記事項

- ・高充足率の学生募集が財務基盤の安定に繋がることから募集業務の取り組みを重視する。

(9) 法令等の順守

◆特記事項

・法令・設置基準の順守については、昨年末に行われた国土交通省の立入り検査において適正と評価判定を受けている。また、自己評価の公開等は適切に実施され順守されている。昨年度の改善項目については、(6)の教育環境で述べた通り改善を図ることができた。今後も諸処の問題点を如何に改善するかが課題となる。

5. 学校関係者評価総括

評価委員から賜った貴重な意見や助言を真摯に受け止め、今後のより良い学校づくりと学校活性化に繋がるように、この自己点検評価から可能な限り改善やあらたな取組みを実践したいと考える。